

心で伝える

広報紙



▲吹き込み作業をする皆さん



▲点訳した冊子を製本する皆さん



広報白河には、点字で読むことができる「点字のおたより」、カセットテープで聞くことができる「声のおたより」があることをご存じでしょうか。今月号では、広報白河などを点字や声で伝えるために活動している2つの団体を紹介します。

■声のおたより

さつき会



▲石上雄昭会長

「きれいな日本語で、利用者の解釈を邪魔しないように読むことが難しい」と話すさつき会の石上雄昭会長。さつき会では、現在10人の会員が市の広報紙や社会福祉協議会だよりなどを音訳し、カセットテープに吹き込んでいます。もともと朗読に興味があった石上さんは、外部から講師を招いた朗読講習会に参加したことをきっかけに活動を始めました。小説などの本の朗読は、感情を込めて読むことができますが、広報紙などの音訳の場合は、内容を正しく伝えるために、分かりやすく読むことが求められます。そのためには、まずは読み手が内容を理解しなけ

もっと多くの人に知ってもらいたい
利用してほしい

■声のおたより

視力に障がいのある方や、高齢で文字を読むことが困難な方などを対象に、市の広報紙や社会福祉協議会だより「なごやか」などを無料でカセットテープに吹き込み、お届けしています。希望する方は、お申し込みください。
●申し込み・問い合わせ先
社会福祉協議会 ☎@1159

■点字のおたより

白河点字友の会



▲館岡秀明会長

「点訳のルールに従って、内容を正しく伝えることが難しい」と話す白河点字友の会の館岡秀明会長。点字友の会の皆さんは、パソコンのソフトを使って、市の広報紙や議会だよりの点訳をしています。館岡さんは、退職後、パソコンを使って何かできることはないかと思いついて点訳を始めました。ほかの会員も、誰かの役に立ちたい、学生時代から点字に興味があった、県点字図書館や市の点訳奉仕員養成講座を受講したなど、様々な動機で集まり、現在26人が活動しています。ほとんどの方が点訳初心者で入会していますが、週に1回、研修会を行い、会員が点訳した内容を確認

技術を向上させ
より分かりやすく伝えたい

したり、点訳ルールを勉強したりして、知識を日々向上させています。点訳作業では、分かりやすく伝えるために数時間も悩むこともあり、日本語の難しさを痛感することもあります。しかし、仲間と分担し、時間をかけて一冊のものを作り上げたときの達成感、さらには、利用者から点訳してくれてありがとうの感謝の言葉を聞いたときは、やりがいを感じるそうです。会では、利用者の希望するものを点訳して、少しでも役に立ちたいと考えています。「利用される方の希望に答えられるように、また、より分かりやすく伝えられるように、今後も点訳の技術を向上させていきたい」と話す館岡さんからは、点訳に対する真摯な態度と、利用者の役に立ちたいという優しい思いが伝わってきました。

■点字のおたより

視力に障がいのある方を対象に、市の広報紙や議会だよりの点字版を無料でお届けしています。希望する方は、お申し込みください。
●申し込み・問い合わせ先
本庁舎社会福祉課 ☎@1111
内2714